水道も電気も安定供給 明石海峡大橋は安心の架け橋

淡路島は年間通じて温暖・多照・少雨の気候です。また、小規模な河川が多く、地形・地勢的に水の確保が難しい地域です。このため、過去には渇水に頻繁に苦しめられましたが、明石海峡大橋を活用して本州から水道水の送水が行われるようになり、大きな被害を受けることはなくなりました。

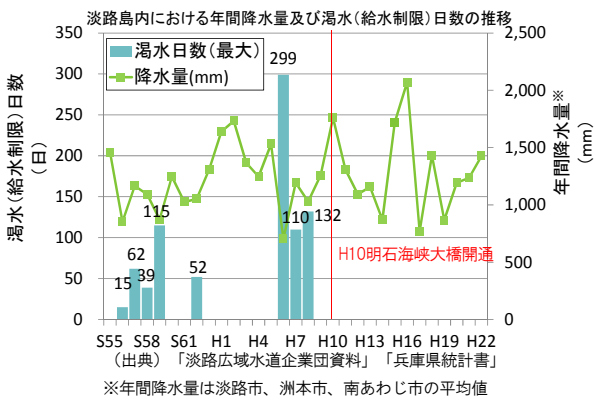
また、明石海峡大橋への送電線の設置により、投錨等による海底ケーブルの外傷事故もなくなり、安定した電力供給に寄与しています。

明石海峡大橋をわたり淡路島に供給される水道と電気

渇水時の断水が解消

- 淡路島の水道水はため池や井戸に依存していたため、少雨の年は渇水が発生。
- 明石海峡大橋の架設後、給水制限は完全に解消。

渇水の年は最大で299日断水



（出典）「淡路広域水道企業団資料」「兵庫県統計書」

※年間降水量は淡路市、洲本市、南あわじ市の平均値

干上がった南あわじ市（当時：南淡町）のダム湖。同市では平成6（1994）年、7月7日から299日間も渇水が続いた。

電気ケーブル断線事故も解消

- 淡路島の電気は海底ケーブルで本州から送電されていたため、船の投錨による断線事故が発生。
- 明石海峡大橋の架設後、電気ケーブルを通すことにより安定供給が実現。